

2023年（令和5年）10月総領事メッセージ

この時期は毎年恒例の行事が目白押しです。9月30日には、日系文化会館(JCCC)にて「カンパイ・トロント2023」が開催されました。トロントの日本酒振興団体 SIO (Sake Institute of Ontario) が主催するこのイベントは今年で11回目になります。今年は60以上の酒蔵から250種類の日本酒及び日本酒に合う日本食が提供され、来場者は約600名（チケット制のため約600名が上限となる。）を数えました。



「カンパイ・トロント2023」

今年2回目となる、「トロント・ジャパン・ジョブ・フェア2023」(Toronto Japan Job Fair 2023) が10月1日、ノースヨークにあるホテルの会場で実施されました。出展した企業・団体は、20社・団体。求職側の事前登録者数は530名近くで当日300名近い参加がありました。トロント在住の移民、トロントで勉強する日本人学生、またオンタリオで日本語を学ぶ多くの学生にとって、日系企業に就職する極めて有益な機会となっています。



「トロント・ジャパン・ジョブ・フェア2023」

1. 「駅ナカ」イベント (Next Stop: Japan) の開催

トロント圏は700万人を越える人口を擁し、毎年約10万人規模で人口が増加している先進国の中でも希有な大都市圏です。トロントは、NY、ロスに次ぐ北米第3の都市であり、こうした人口増加も相まって、オンタリオ州及びトロント市ではインフラ・都市開発が喫緊の課題となっています。日立が参画している地下鉄オンタリオ線の新規開設計画もこうしたインフラ・都市開発の一環。また、インフラ開発への新規参入に高い関心を示している日本企業もあります。

日本には、駅や鉄道を中心にコミュニティを形成してきた歴史があります。いわば「駅を中心とした街づくり」であり、駅は日本の近代化、とりわけ地域社会の発展に大きな役割を果たしてきました。駅周辺に形成されたコミュニティに学校や病院といった社会インフラを建設し、社会的課題に対して地域コミュニティで対応するといった日本型都市開発について、オンタリオ州政府やトロント市の要人に説明すると高い関心が示されます。今後高齢化社会に突入する見込みのトロントでも、少子高齢化を念頭に運賃収入に頼らない鉄道経営を模索する必要性が認識されています。

今年1月にはキング・サーマ・オンタリオ州インフラ大臣が訪日。我が国の都市交通型コミュニティ (TOC: Transit Oriented Communities) を視察するため、「横浜みなとみらい21」等を訪問されました。2月の天皇誕生日レセプションに来賓として挨拶されたサーマ大臣は、「今回の日本訪問は私の人生を変えた」と述べられ、日本の事例を参考としながら、オンタリオ州のインフラ・都市開発にいっそう真剣に取り組む決意を表明されました。

このような考え・背景から、来る11月1日から4日までの4日間、トロントの玄関口ともいえるユニオン駅にて「Next Stop: Japan」を開催します。本年は日加修好95周年であることや、訪日観光客の更なる誘致等の観点も踏まえ、日本の駅の有効な利用方法を提示した「駅ナカ」をトロントで再現するとともに、ステージを設置し、日本文化を紹介。日本の「駅ナカ」、日本の文化を体験するイベントとなることを期待しています。

会場内にはブースを設置し、日系企業の協力を得て日本の駅構内で見られるファッション、小物、工芸品、弁当等を紹介・販売します。また、領事館として日本貿易振興機構 (JETRO)、日本観光振興機構 (JNTO)、国際交流基金 (JF) の諸機関と共催し、ブースにて観光紹介などを行い、特定の来場者には日本行きの航空割引券やトートバッグなどのギフトを配布する予定です。駅構内のLCBOでは、日本酒のフードペアリング試飲会が行われます。お時間

のある方は是非、おいで下さい。

■期間： 2023年11月1日（水）～11月4日（土）4日間

■時間： 11時～19時

■場所： ユニオン駅 ウェストウィング（トロント）

※お酒の試飲はユニオン駅構内 LCBO にて開催

<https://www.jetro.go.jp/canada/events/nextstopjapan.html>

2. ホタテで日本の水産物の安全性をアピール

「駅ナカ」イベントに先立ち、10月19日、20日の両日、ユニオン駅で日本の海産物の安全アピールのため、ジェトロ・トロント事務所の主催で「ホタテ祭り」が開催されました。

ユニオン駅のコンコースで、日本産ホタテのパッケージを無料配布。3000個用意された試供品は、両日とも短時間で「売り切れ」となりました。トロント市民の皆さんに対しては日本の水産物、食品安全アピールの良い機会になったと思います。



「ホタテ祭り」

3. トロント日本補習授業校設立 50 周年

トロント日本補習校は1973年（昭和48年）、主に日系企業の駐在員の子女が日本の教育をトロントでも受けられるように深い学びのある学習活動をめざして授業を展開すべく、トロント日本商工会が設立した学校です。10月21日、設立50周年を記念して記念行事が開催され、この機会に総領事として在外公館長表彰を実施させていただきました。

設立以降、同校は教育活動の充実に邁進してこられました。この間に学舎を築立たれた卒

業生は、さまざまな分野で活躍する有為な人材を輩出しておられます。記念式典でも同校卒業生の一人でありトロントで医師として活躍されている勝田毅様が講演を実施されました。勝田先生のご自身の体験に基づく講話は、在校生にとって大いに勉強になったでしょう。現地校に通いながら週末に日本語の授業を受け課題もこなすことは容易なことではありません。同校が50周年を迎えたのは、向学心に燃えて本校に学ぶ生徒の皆さんのたゆまぬ努力、その熱意と期待に応じてこられた歴代校長先生をはじめとする教職員の方々のご指導のたまものです。高校3年の課程に在学する生徒は、カナダの課程ではすでに大学に進学しながら、補習校の卒業を目指している生徒さんもおられます。また、補習校を運営から支えて下さった運営委員長をはじめとする運営委員各位、さらには本校教育活動を物心両面にわたって支援してこられた保護者、同窓生のご尽力に心より深く感謝と敬意を表します。

この50年の間、私たちを取り巻く環境は大きく変わりました。めまぐるしいスピードで情報が飛び交い、社会・文化・経済は簡単に国境を越える時代となりました。技術革新は、人と人、国と国との距離を狭め、世界のどこにしようとも、瞬時にあらゆる情報・ニュースを知ることができるにしています。一方で、それらの情報は、自らがその情報の価値を判断し、肌身で感じる力を養わなければ、有効に使われないものとなり得ます。我々個人個人の判断力がなければ弊害を及ぼすものにさえなります。

その意味において、補習校での活動を通して卒業生・在校生の皆様が磨かれた国際的な感覚は、世界で起こる様々な事象を、身近な感覚をもって理解することを助けるでしょう。そして、今後、世界が引き続き緊密な繋がりを強めていく中において、このような力は益々重要性を増していくでしょう。

本校卒業された諸先輩方と、その後続く後輩が本校を基点として結ばれ、活躍の場を広げることができるのならば、それは本当に素晴らしいことだと思います。



記念行事の写真